

ハリス理化学館同志社ギャラリー第11回企画展

同志社社史資料センター一新収蔵品展

—新島公義宛書簡等 資料の紹介—



2016年12月6日（火）～27日（火）

会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー
2階企画展示室2

（同志社大学今出川キャンパス ハリス理化学館）

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日、23日（金）、25日（日）

【入場無料】

「新島公義肖像」（同志社社史資料センター蔵）

上記以外は同志社社史資料センターの新収蔵品

【企画趣旨】

同志社社史資料センターは、昨年度、新島襄の実弟・^{そうろうく}双六の養子である新島^{きみよし}公義（1861-1924）関係資料を購入しました。

この資料群は全 852 点（内 730 点が葉書）、時期は明治 21 年（1888）から同 36 年（1903）で、ほとんどが公義宛ての書簡です。書簡の差出人には、公義の実家である植栗家や、実業家・政治家で同志社社員（理事）もつとめた中村栄助、ジャーナリストの徳富蘇峰など、同志社関係者が多く含まれていました。資料のうち年賀状が 326 点とかなりの部分を占めますが、この他に公義の新潟・長野での伝道、同志社とアメリカン・ボード（アメリカのキリスト教伝道組織）との対立、公義の実業界転身に関する資料もあります。

公義は、明治 23 年（1890）の襄没後、次第に同志社との関係が希薄になっていきます。そのため公義の生涯は口承により説明されることが多く、資料的な裏付けが十分になされていません。この点からすると、本資料群は、特に襄没後の公義の動向や人物交流を知る上で、興味深いものといえるでしょう。本展示ではこの中から 12 点を紹介します。

主な展示資料

- ・中村栄助書簡
- ・松山高吉書簡（松山高吉は牧師。同志社で教授や社員（理事）もつとめた）

新島公義略歴

文久元年（1861）10 月 24 日、^{こうすけのくにあんたか}上野国安中藩士・植栗義達の二男として生まれる。

同じく安中藩士であった新島家では、密出国した襄が廢嫡され、弟・双六が家督を継いだ。しかし双六は、明治 4 年（1871）、病のため若くして没する。その死の直前、公義は双六の養子となり、新島家の家督継承者となる。

公義は一時、安中（現・群馬県安中市）で小学校教員をつとめたのち、明治 11 年（1878）、京都に行き、新島襄・八重夫妻の家に同居する。その後、新島襄が創立した同志社英学校に入学、明治 16 年（1883）に卒業し、三重・奈良などにおいてキリスト教伝道活動を行った。明治 23 年（1890）に新島襄が亡くなった後も長野・新潟において 2 年ほど伝道活動を行っていたが、京都に戻って同志社の事務職につく。明治 28 年（1895）、同志社とアメリカン・ボードとの対立が顕在化する中、同志社を去り、「実業」界へ転身した。

大正 13 年（1924）5 月 18 日没。



明治 25 年 5 月 17 日付 中村栄助書簡



年未詳 12 月 5 日付 松山高吉書簡

地下鉄烏丸線 「今出川」 駅から徒歩 3 分
京阪電車 「出町柳」 駅から徒歩 15 分
バス停 「烏丸今出川」 から徒歩 3 分

お問い合わせ先：ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学今出川キャンパス ハリス理化学館
TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736
ギャラリーホームページ：http://harris.doshisha.ac.jp/

